

Meditator's non-contact effect on cucumbers

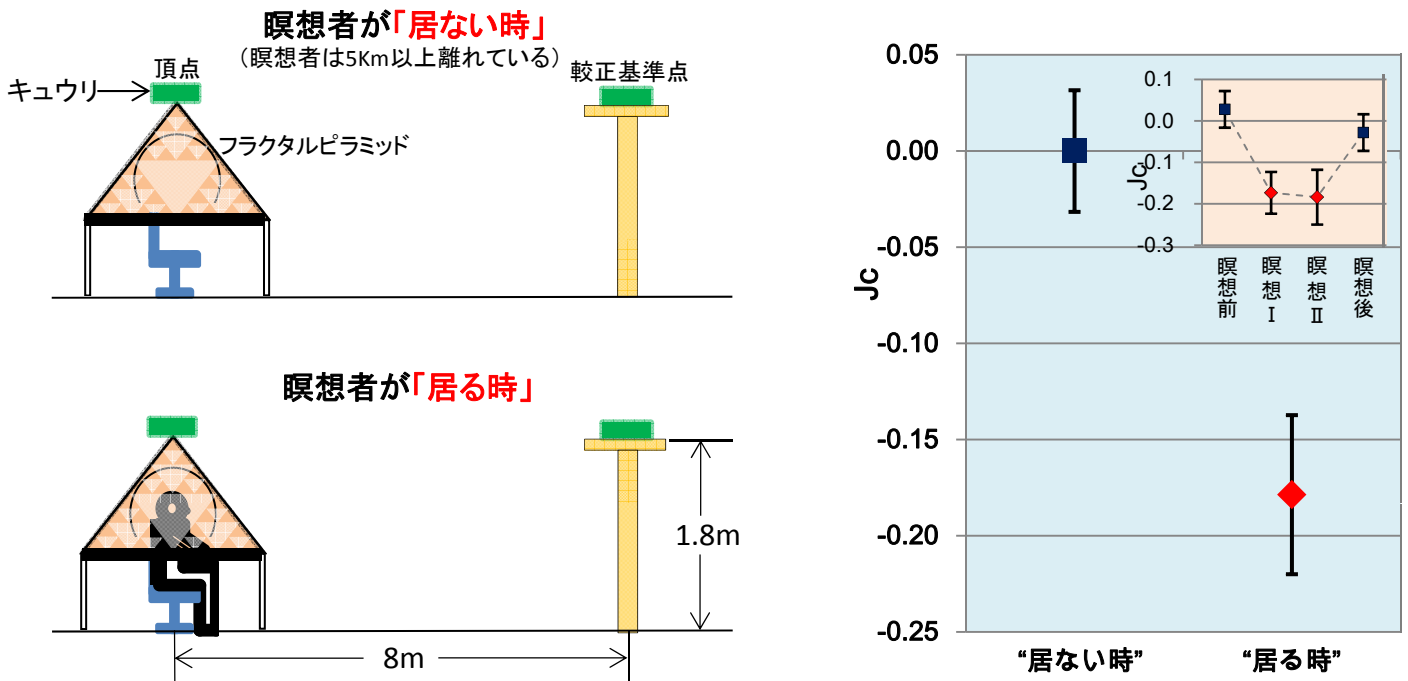
「瞑想者のキュウリへの非接触効果」

高木治¹、坂本政道²、小久保秀之¹、世一秀雄¹、河野貴美子¹、山本幹男¹

¹国際総合研究機構 (IRI) 情報研究センター、千葉県千葉市稲毛区園生町1108-2

²(株)アクアヴィジョン・アカデミー、千葉県成田市津富浦1228-3

概要：食用キュウリを測定試料として使った、瞑想者による**非接触**実験。フラクタルピラミッド型構造物の中に、瞑想者が「**居る時**」と「**居ない時**」の違いによって、キュウリから発生するガス濃度に、大きな差(約20%)が存在することを、科学実験で非常に高い統計精度で立証した。この結果は、既存の科学理論で説明することはできず、今後の科学に新天地を切り開く可能性が高い。



実験と解析：瞑想者が居ない時(瞑想前、瞑想後)(瞑想者は実験室から5Km以上離れた所に居る)、同じキュウリから切り取った2つのキュウリ片をそれぞれ別のペトリ皿に入れ、一方をフラクタルピラミッドの頂点、もう片方を8m離れた校正基準点に置き、**30分間セット**する。30分後2つのペトリ皿を別々の密閉容器に入れて36時間程度保管し、キュウリから発生した**ガス濃度を測定**する。瞑想者が居る時(瞑想 I・II)は、条件は居ない時と同じで、瞑想者はフラクタルピラミッドの中で頭上のキュウリを意識せず、30分間ヘミシンクを聞きながら瞑想する。2つのキュウリ片の環境条件(温度、湿度、気圧、光度、電磁場等)は同一になるように配慮され、純粋にフラクタルピラミッド頂点と校正基準点との違いが測定できるような実験環境を整えた。 J_c はフラクタルピラミッド上のキュウリのガス濃度を、校正基準点でのガス濃度で割った値の自然対数を計算したもの。**瞑想者による非接触効果の存在の有無は、瞑想者が居ない時の J_c と、瞑想者が居る時の J_c との差の有無によって明らかとなる。**

結果と考察：全部で672個のキュウリサンプルのガス濃度を測定し、 J_c を計算した。瞑想者が居ない時の J_c で校正($J_c=0$)した結果、瞑想者が居る時は $J_c=-0.18$ となり、明らかに差が存在する結果を得た。これは瞑想者が居る時と居ない時で、フラクタルピラミッド上のキュウリの**ガス濃度の差が20%ある**ことに相当する。この結果が偶然に**発生する確率は100億分の1程度**であり、ほぼ確実に**瞑想者が非接触でキュウリに影響を与えている**と考えられる。

結論：瞑想者が直接接触することなく、生体であるキュウリに対して影響を及ぼす非接触効果を、測定可能な現象として、その存在を明らかにした。この様な**未知なる現象の存在を非常に高い統計精度で実証した**科学的な測定は今までになく、新たな科学的分野を開く可能性がある。また現在のところ、この様な実験結果が物理系学術誌に掲載されることは非常に稀なことである。